

特性			例示		基本的考え方・点検事項		具体的な対応策	
					2) 既存の消火設備は、定期的な点検を実施するとともに、経年劣化等による機能低下が見られないか確認しましょう。 ○機能低下が見られない場合は右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ	☐	2) 点検が行われていない場合は、定期的な点検を実施しましょう。 また、機能低下が見られる場合は、点検の結果を踏まえ、業者と相談し、設備を更新するなどの対応を検討しましょう。 (予定される内容・時期：) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑ 3) 計画を立て、訓練を定期的に行いましょう。 (訓練の実施時期：) ○「訓練の実施時期」を記載したら右欄に☑	☐
					3) 既存の消火設備を用いた訓練を定期的に行いましょう。 ○訓練を定期的に行っていたら右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ	☐		
					【面的防災力の強化】 1) 自主防災組織や近隣の人々と防火対策や災害時の共助体制等について協議しましょう。 ○協議していたら右欄に☑ ⇒協議していない場合は「具体的な対応策」へ	☐	1) 現状を確認し、自主防災組織や近隣の人々と課題等を共有しましょう。 ○共有できたら右欄に☑ また、次のような対応により、自主防災組織や近隣の人々と火災情報等を共有できるように対応も検討しましょう。 例 ・屋外警報装置等を設置する。 ・地域で火災警報を共有できる機器・システムを導入する。 (予定される内容・時期) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑	☐
					2) 自主防災組織や近隣の人々と定期的に防災訓練を行いましょう。 ○防災訓練を行っていたら右欄に☑ ⇒防災訓練を行っていない場合は「具体的な対応策」へ	☐	2) 現状を確認し、近隣の人々と連携のもと定期的に防災訓練を行いましょう。 ○防災訓練を行ったら右欄に☑ ⇒ただちにに行わない場合は防災訓練の実施時期を記載しましょう。 (訓練の実施時期) ○「訓練の実施時期」を記載したら右欄に☑	☐

特性	例示	想定される火災リスク等	基本的考え方・点検事項		具体的な対応策	
			3) 既存の消火設備により、建物の外周部全体に円滑に放水できるか確認しよう。 ○円滑に放水できる場合は右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ		3) 次のような対応により、建物外周部全体に円滑に放水できるように対応を検討しよう（なお、これらの設備は、実際に建物に延焼した場合、消防隊が到着するまでの火災拡大防止対策にも利用可能な設備となり有効な設備です）。 例・放水銃を設置する。 ・ドレンチャージャーを設置する。 ・屋外消火栓設備を設置する。 (予定される内容・時期：) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑	☐
			4) 既存の消火設備は、定期的な点検を実施するとともに、経年劣化等による機能低下が見られないか確認しよう。 ○機能低下が見られない場合は右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ		4) 点検が行われていない場合は、定期的な点検を実施しよう。 また、機能低下が見られる場合は、点検の結果を踏まえ、業者と相談し、設備を更新するなどの対応を検討しよう。 (予定される内容・時期：) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑	☐
			5) 防災マップ等による火災危険箇所を確認し、周知しよう。 ○確認し、周知していれば右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ		5) 下記事項を念頭に、市区町村等の都市整備部局等と協議し、防災上の危険箇所を確認し、周知しよう。 ・敷地周囲の空地の確保(火除地の確保) ・周辺市街地の防火対策の強化(道路や公園等の整備による延焼の防止・遮断、消防車両等の進入路となる道路の整備改善、老朽化住宅の建替、住民が使える消火設備の設置、消防水利の確保・整備等) ○危険箇所を確認したら右欄に☑	☐
		・周辺市街地で発生した火災からの守るために延焼防止策を講じよう。	【延焼防止策】 1) 既存の消火設備により、建物の外周部全体に円滑に放水できるか確認しよう。 ○円滑に放水できる場合は右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ		1) 次のような対応により、建物外周部全体に円滑に放水できるように対応を検討しよう（なお、これらの設備は、実際に建物に延焼した場合においても、消防隊が到着するまでの火災拡大防止対策にも利用可能な設備となり有効な設備です）。 例・放水銃を設置する。 ・ドレンチャージャーを設置する。 ・屋外消火栓設備を設置する。 (予定される内容・時期：) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑	☐

基本的考え方・点検事項			具体的な対応策	
特性	例示	想定される火災リスク等		
			2) 既存の消火設備は、定期的な点検を実施するとともに、経年劣化等による機能低下が見られないか確認しましょう。 ○機能低下が見られない場合は右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ	2) 点検が行われていない場合は、定期的な点検を実施しましょう。 また、機能低下が見られる場合は、点検の結果を踏まえ、業者と相談し、設備を更新するなどの対応を検討しましょう。 (予定される内容・時期：) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑ 3) 計画を立て、訓練を定期的に行いましょう。 (訓練の実施時期：) ○「訓練の実施時期」を記載したら右欄に☑
			3) 既存の消火設備を用いた訓練を定期的に行いましょう。 ○訓練を定期的に行っていたら右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ	3) 計画を立て、訓練を定期的に行いましょう。 (訓練の実施時期：) ○「訓練の実施時期」を記載したら右欄に☑
周囲が樹木等の自然に囲まれる。	山岳地に位置する。 社叢等樹木に囲まれる。	・山林火災からの延焼の可能性がある。	【山林火災対策】 1) 周囲の雑草や枯草は除去されていますか。 ○既に除去していたら右欄に☑ ⇒除去されていない場合は「具体的な対応策」へ 2) 敷地内に消防水利は確保されているか確認しましょう。 ○既に確保されていたら右欄に☑ ⇒確保されていない場合は「具体的な対応策」へ	1) 雑草や枯草を除去し、可燃物を減らしましょう。 ○雑草等の除去や可燃物を減らしたら右欄に☑ 2) 火災時の水利の確保のため、消防用水の設置を検討しましょう。 (予定される内容・時期：) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑ ⇒「予定される内容・時期」が記載できなければ「当面の対応策」を記載しましょう。 例・組み立て式簡易水槽等による水利の確保を検討する。 (当面の対応策：) ○「当面の対応策」を記載したら右欄に☑
			3) 既存の消火設備により、建物の外周部全体に円滑に放水できるか確認しましょう。 ○円滑に放水できる場合は右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ	3) 次のような対応により、建物外周部全体に円滑に放水できるような対応を検討しましょう（なお、これらの設備は、実際に建物に着火した場合、消防隊が到着するまでの火災拡大防止対策にも利用可能な設備となり有効な設備です）。 例・放水銃を設置する。 ・ドレンチャージャーを設置する。 ・屋外消火栓設備を設置する。 (予定される内容・時期：) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑

特性		例示		想定される火災リスク等		基本的考え方・点検事項		具体的な対応策	
							4) 既存の消火設備は、定期的な点検を実施することともに、経年劣化等による機能低下が見られないか確認しましょう。 ○経年劣化が見られない場合は右欄に☑ ⇒ 上記以外の場合は「具体的な対応策」へ	☐	4) 点検が行われていない場合は、定期的な点検を実施しましょう。 また、機能低下が見られる場合は、点検の結果を踏まえ、業者と相談し、設備を更新するなどの対応を検討しましょう。 (予定される内容・時期：) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑ 5) 計画を立て、訓練を定期的に行いましょう。 (訓練の実施時期：) ○「訓練の実施時期」を記載したら右欄に☑
							5) 既存の消火設備を用いた訓練が定期的に行いましょう。 ○訓練を定期的に行っていたら右欄に☑ ⇒ 上記以外の場合は「具体的な対応策」へ	☐	
							【落雷対策】 1) 避雷設備は整備されており、既存の設備が適切に設置されているか確認しましょう。また自動火災報知設備等の機械設備に避雷器が設置されているか確認しましょう。 ○避雷設備が適切に設置されており、かつ避雷器が設置されていれば右欄に☑ ⇒ 上記以外の場合は「具体的な対応策」へ	☐	1) 落雷密度マップを確認するなど、落雷の危険性を確認し、周囲の環境に応じて避雷設備を整備を検討しましょう。また自動火災報知設備等の機械設備には避雷器の設置を検討しましょう。 (予定される内容・時期：) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑ ⇒ 「予定される内容・時期」が記載できない場合は「当面の対応策」を記載しましょう。 例・落雷により自動火災報知設備等の機械設備が毀損していないか、落雷後に点検する 等 (当面の対応策：) ○「当面の対応策」を記載したら右欄に☑
4) 活用・管理の実態について									

基本的考え方・点検事項			具体的な対応策	
特性	例示	想定される火災リスク等	基本的考え方・点検事項	具体的な対応策
常時管理者が不在 (あるいは少人数のみ)である。	常駐している管理者が不在、常駐しているが、高齢者のみで火災時の初動体制が取れない	・放火による火災の危険性が高く、また、火災に気づくのが遅れて拡大する危険性がある。 ・管理者が少人数や高齢者である等のため、初期消火体制が脆弱である。	【防犯対策等の出火防止策】 1) 死角となる部位など、危険箇所を予め把握し、無人になる箇所についてはセンサー等で侵入者を予防する対策を講じているか確認しよう。 ○対策を講じている場合は右欄に☑ ⇒対策を講じていない場合は「具体的な対応策」へ 2) 応急対応時の手順を確認しておく等、重要文化財(建造物)の所有者や管理団体等の関係者と消防機関等との間で情報共有しよう。 ○応急対応時の手順等について情報共有できている場合は右欄に☑ ⇒情報共有できていない場合は「具体的な対応策」へ 【火災の早期認知】 1) 管理者が不在になる場合でも、火災を早期に認知するための体制等は整備されているか確認しよう。 ○整備されている場合は右欄に☑ ⇒整備されていない場合は「具体的な対応策」へ 【初期消火対策】 1) 既存の屋内消火栓設備等の消火設備を使用し、夜間などを含め常時円滑な消火活動が行えるか確認しよう。 ○常時円滑な消火活動が行える場合は右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ	1) 熱線センサー付きの照明器具や人感センサー、サイレン等を整備し、死角となる箇所を減らしよう。必要な場合には監視カメラの設置も検討しよう。 (予定される内容・時期：) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑ 2) 応急対応時の手順や、消火活動時の留意点などについて、消防機関等との間で情報共有しよう。 ○関係者等と危険性について情報を共有できたら右欄に☑
万が一出火した場合であっても被害を軽減するため、管理の実態にあった火災の早期認知、初期消火対策を徹底しよう。				1) 次のような対応により、早期に火災が認知できる体制等を検討しよう。 例・近隣住宅等人のいるところに副受信機を設置する。 ・警備会社等と連携し、遠隔移報システムを構築し、火災の早期認知・通報体制を構築する。 ・警報等を聞くことのできる近隣の人々に協力を依頼する。 ・機械警備を導入する。 (予定される内容・時期：) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑
				1) 次のような対応により、夜間などを含め常時円滑な消火活動が行えるよう検討しよう。 例・消火体制の確保について、関係者等と協議する。 ・一人でも操作可能な易操作性の消火栓設備への更新を検討する。 ・ホースの口径を細いものにするなど、操作性を向上させることを検討する。 (予定される内容・時期：) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑

特性	例示	想定される火災リスク等	基本的考え方・点検事項	具体的な対応策
			2) 既存の屋内消火栓設備等の消火設備は、定期的な点検を実施するとともに、経年劣化等による機能低下が見られないか確認しましょう。 ○機能低下が見られない場合は右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ	2) 点検が行われていない場合は、定期的な点検を実施しましょう。 また、機能低下が見られる場合は、定期的な点検の結果を踏まえ、業者と相談し、設備を更新するなど対応を検討しましょう。 (予定される内容・時期：)
			3) 既存の屋内消火栓設備等の屋内消火栓設備を用いた訓練を定期的に行いましょう。 ○訓練を定期的に行っていたら右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ	3) 計画を立て、訓練を定期的に行いましょう。 (訓練の実施時期：) ○「訓練の実施時期」を記載したら右欄に☑
5) その他				
建造物内部に火災に弱い美術工芸品等がある。	美術工芸品として価値の高い障壁画、仏像等がある	・建物、立地、周辺環境のそれぞれ特性に応じて想定される火災のリスクがある。	【防災計画（美術工芸品の搬出計画を含む）】 予め美術工芸品の搬出計画を含めた防災計画（又は保存活用計画）を策定しましょう。 ○美術工芸品を含めた一体的な防災計画（又は保存活用計画）を策定していれば右欄に☑ ⇒防災計画を策定していなければ「具体的な対応策」1）-1、-2のいずれかへ	下記の1) -1、-2のいずれかに☑してください。 1) -1 搬出が可能な美術工芸品であれば、搬出計画を含めて防災計画を策定しましょう。 (予定される内容・時期：) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑ 1) -2 搬出が困難な場合は、建物、敷地、周辺環境の特性を把握したうえで、美術工芸品の特性にも配慮した防火対策を講じましょう。 (予定される内容・時期：) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑ ⇒「予定される内容・時期」を記載できない場合は、市区町村等と共に美術工芸品の所在の確認と脆弱性を共有しましょう。 ○共有できたら右欄に☑
最後に				
文化財の防火対策は、個々の文化財が抱える防火に対するリスクを把握したうえで、現在の管理体制に応じた防火設備の整備が求められます。 防火設備整備後、一定期間を経過しているもので、機能不全や機能停止等が発生している場合は、速やかに改修し、常時作動できるようにしておくことが大切です。 今回の調査において機能不全や機能停止がみられる場合は、具体的な対応策として速やかに整備計画を策定しましょう。				